



## 経済における現実と考察

黒田インターナショナルコンサルティング

黒田 毅

労働が唯一富を生産する。この搾取が、現実の誤りを与えるのである。

資本主義における資本という現実、投資と競争原理において、資本という現実における世界の支配を有する。これは国際金融資本などにおける現実が存在するのである。

労働が唯一富を生産することに対して、すべての搾取はこれらからの搾取において資本主義という現実を与えるのである。

労働が生産を有する。この真実は、労働対価が搾取において金融システムを構築しているのである。すべての投資は、永続的に利益を創出する。しかし富の生産は存在しないのである。これは、すべて労働からの搾取において利益の創出が可能とされるのである。

これはマルクスの資本論が、労働者において完全に肯定されることを意味する。

シカゴ学派の自由経済への信奉は、これら経済システムの肯定なのである。

これは生産という現実が唯一、富を有するという原理と原則であり、すべての現実はずべてこれに隷属するのである。しかし現実、資本主義と投資運用という国際金融資本における資本を有する。

これは岸田首相の提示する新資本主義への正しい考察である。日本国が、渋沢栄一の経世済民という現実を有することは真実なのである。しかし世界の潮流は、完全にグローバル市場を支配しているのである。

これらは、インダストリー4.0における新しい生産システムが未来を支配することは確かであるため、資本の所有という経済の基盤は、経済の所有を有するという真実が存在する。

また新しいマネーシステムの新世界秩序における創造は彼らの根本原理なのである。そのため、自己経済システムとマネーシステムの創造は必ずこれに寄らなくてはならない。日本のNHKドラマ、おしんスタイルにおける新資本主義と経済マネーシステムは必ず正しいのである。